

水墨画は鎧(かすがい)

森下伍朗

退職後20～30年生きるであろう年月を、どう過ごすかは私にとって大変な問題であった。

趣味と言える程のものも無く、強いてあげればゴルフ、ジム通い、映画鑑賞ぐらいであった。

退職後すぐにゴルフ、ジムの会員権を購入したがそれだけでは十分ではない。

近隣にある大学のオープンカレッジで、100を超える講座が有るのを知り、早速覗いてみると体育、文化、経済、芸術系の講座があった。

雨が降っても、夜でもやれる今まで縁のなかったことから選択しようと、芸術系から水墨画を軽い気持ちで選び、6ヶ月の会費を納めた。

絵を描いたのは、小学校以来記憶は無く、購入した筆、絵具、画仙紙には新しい世界への扉が開いたような気がした。

これを契機に上野、六本木、銀座の美術館、ギャラリーの展覧会を探して出かけことが多くなり、時間の過ごし方が変わってきました。

まもなく新聞紙上に水墨画の展覧会が開催しているのを見つけ出かけると、200点の作品が展示され花鳥風月、山水画どれも素人とは思えないほどのものであった。

主催者は中国の魯迅美術大学卒業後東京芸術大学で3年間研究員として研鑽され、天安門事件の時、来日された女性で何^ヒ ^{イエ}ン^ン さんといわれた。早速、入会をお願いし弟子になった。

当会は毎年のように先生の引率で、中国の世界遺産をスケッチ旅行し、展覧会を開催していた。



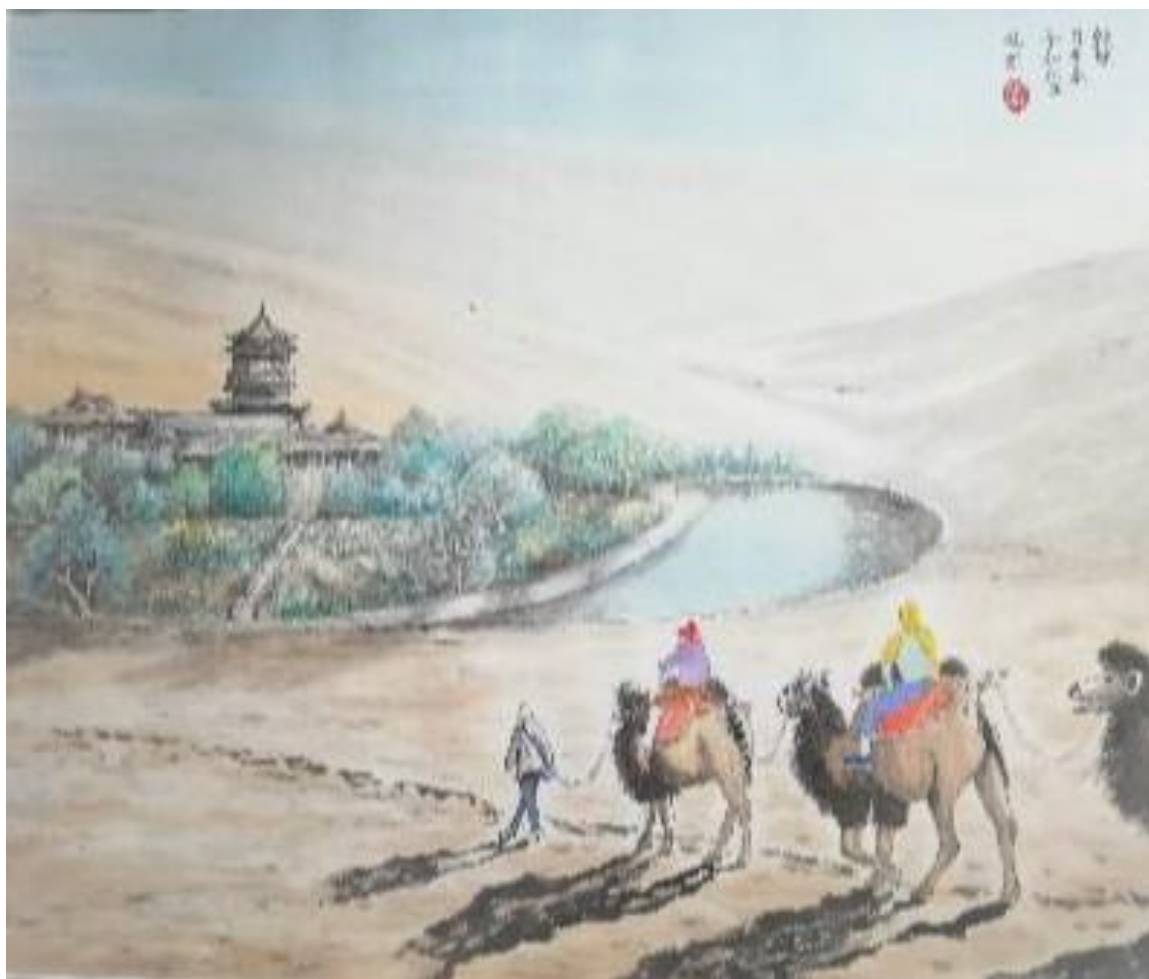
【作品1:キキちゃん】

私は積極的に参加し、先生の友人主催の展覧会にも出展するまでになり、毎年4～5回いつしか展覧会に参加するまでになっていた。

生活の柱は水墨画が占めるようになるには、時間はかからなかった。

私が2005年初めて描いたキキちゃん、私は猫派で我が家が可愛がっていた猫で、その後何枚も猫を描いたが、これを

超えるものは何故か描けない。



【作品2: 月牙泉オアシス】

動物を描いたのは 2019 年コロナ前年、西安から敦煌莫高窟、玉門関とシルクロードを巡り、敦煌近くの月牙泉オアシスでラクダに乗った時に描いたぐらいで、もっぱら山水画が中心です。



2012 年銀座画廊で開催された国際水墨画芸術大展に出展した作品は、現代中国報に取り上げられた。

また中国大使館賞、浦安教育委員会賞等賞状を頂くと、もっと意欲になり、続ける動機にもなり、今や 20 年を超えて、昭和シェルOB美術部、浦安美術協会メンバーに名を連ねています。

多くの友人は私が絵を描く事が、最もらしくないとか、信じられないと言っています。

【資料: 現代中国報】

当初の思いどおり時間つぶしになり、友人が増え、旅が出来、水墨画の選択に間違いは無かったと思っています。

最近はコロナ後、中国旅行が出来なくなり、また政治的に行きづらい状況ですが、あの雄大な世界自然遺産に行けないのは残念でなりません。

機会が来るまで待つしかありませんが、行けるかどうかは、寿命との競争です。

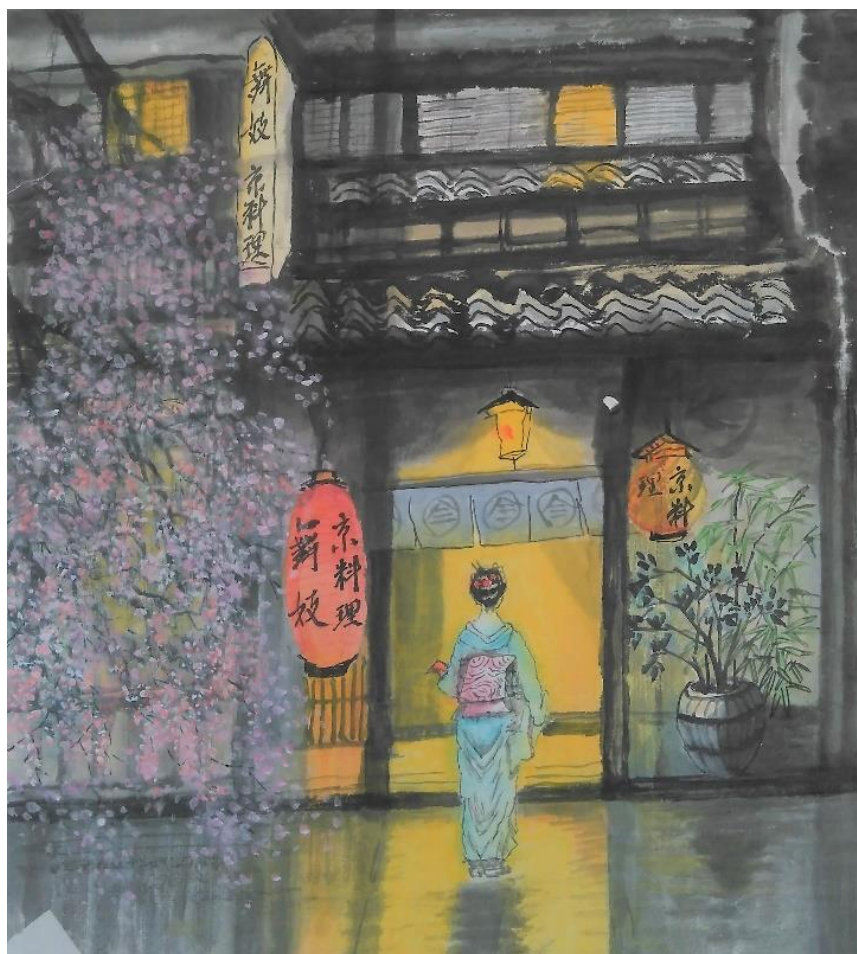
毎年のように京都の友人を訪ねていますが、何度行っても飽きることも無く、これからは国内旅行が中心になるでしょう。

然しTVを観るとNHK、BS、デスカバリー、ナショナルジオグラフィックチャンネルで、シルクロード、旅空中国、中国名山紀行、大路通天、中国を知る、中国世界遺産等多くの見慣れた風景が、4Kやドローンの最新映像で蘇り、行った先の映像が出ると、女房と中国で購入した地図を広げ話が弾みます。

『子は鎧(かすがい)』と言いますが、我が家は水墨画が鎧となり女房との絆になっています。

早くも20年が過ぎ残り何年生きるか分かりませんが、足腰が立たなくなりゴルフ、旅が出来なくなっても絵は続けられるように人生楽しみたいと思っています。

【私の作品集より】



【作品 3: 京都祇園】



【作品 4:ウィーン大聖堂】

【中国の思いでの水墨画】



【作品 5:張家界】 USA 映画アバターで有名になった世界遺産。



【作品 6: 峨眉山】 樂山大仏とで世界遺産。



【作品 7: 茜色の洞窟】 中国台地は洞窟、鍾乳洞がやたらと多い。



【作品 8:黄果树瀑布】 東洋最大の瀑布。

以上